

現場代理人		監督員		係長		課長	
-------	--	-----	--	----	--	----	--

平成 年度 起工第 - - 号

事業

林道○○○○○線○○工区開設工事

平成 年 月 日

# 施 工 計 画 書

請負者



# 施 工 計 画 書

## 工 事 概 要

- (1) 事業名 平成 年度 事業 林道○○○○線○-○工区開設工事
- (2) 工事場所 福岡県 市郡 町大字 字
- (3) 工期 自 平成 年 月 日  
至 平成 年 月 日 日間
- (4) 工事内容

工 種	種 別	数量	単位	摘 要
林道開設			m	
道路土工			m <sup>3</sup>	
	掘削工		m <sup>3</sup>	
	盛土工		m <sup>3</sup>	
法面保護工			m <sup>2</sup>	
擁壁工			基	
	コンクリート		m <sup>3</sup>	
	L型プレキャスト擁壁		m	
	補強土壁		m	
排水施設工			式	
舗装工			m <sup>2</sup>	
防護施設工			式	
工事標識	木製工事用看板枠 (大)		基	
	木製工事用看板枠 (小)		基	

## 現 場 組 織 表

現場代理人  氏 名 ○○ ○○	— 施工管理	主任技術者 ○○ ○○
		— 工程管理者 ○○ ○○
		— 出来形管理者 ○○ ○○
		— 品質管理者 ○○ ○○
		— 写真管理者 ○○ ○○
		— 測量管理者 ○○ ○○
		— 重機管理者 ○○ ○○
	— 安全管理	主任技術者 ○○ ○○
		— 火薬管理者 ○○ ○○
	— 事務管理	事務管理者 ○○ ○○
	— 協力会社	

会 社 名	工 種	責 任 者 氏 名
(株)○○組	土工・擁壁工・排水施設工	○○ ○○
(有)○○圧送	ポンプ打設	○○ ○○
○○産業(株)	法面工	○○ ○○
(株)○○道路	舗装工	○○ ○○
○○工業(株)	防護柵工・区画線工	○○ ○○

## (4) 工事内容

工 種	種 別	数量	単位	摘 要
根株処理	木材チップ化		m <sup>3</sup>	
	チップ散布		m <sup>3</sup>	
法面工				
植生工	A= m2			
種子吹付	種子散布工		m <sup>2</sup>	
厚層基材吹付	植生基材吹付工		m <sup>2</sup>	吹付厚 3cm
植生シート(マット)張	人工張芝工		m <sup>2</sup>	幅50~100cm わら付き
木製伏工				
丸太伏工	木製伏工 (福岡県林道仕様)		m	高さ1.50m
筋工				
丸太筋工	丸太筋工:1本筋工 (福岡県仕様)		m	
擁壁工				
コンクリート擁壁工	生コンクリート 高炉B種		m <sup>3</sup>	
	円形型枠		m	内径φ175
	鉄筋		kg	異形棒鋼SD345A D13
基礎工	基礎栗石		m <sup>3</sup>	敷厚15cm 径5~15cm
目地材				

工 種	種 別	数量	単位	摘 要
プレキャスト擁壁工				
プレキャストL型擁壁	Gr基礎付L型 プレキャスト擁壁		m	H=1500mm L=2.0m
	Gr基礎付L型 プレキャスト擁壁		m	H=2000mm L=2.0m
L型擁壁基礎	基礎コンクリート工		m <sup>3</sup>	18-8-20(高炉) t=10cm
	基礎砕石工		m <sup>3</sup>	t=15cm
排水施設工				
側溝工				
U型側溝	U型側溝据付		m	450 型 L=2.0m 450×450×2000
	U型側溝据付		m	300B型 L=2.0m 300×300×2000
	U型側溝据付		m	300B型 L=0.6m 300×300×600
	U型側溝据付		m	240 型 L=0.6m 240×240×600
横断溝	横断溝据付		m	T25横断用 300×300×1000
	横断溝据付		m	T25横断用 500×500×1000
	コンクリート用砂		m <sup>3</sup>	細目(洗い) t=1cm
	基礎コンクリート工		m <sup>3</sup>	18-8-20(高炉) t=10cm
	基礎砕石工		m <sup>3</sup>	t=10cm
コルゲートU字フリューム	コルゲートU字 フリューム据付		m	A型600×600mm 植生土のう 4袋/m
	コルゲートU字 フリューム据付		m	A型350×350mm 植生土のう 4袋/m
集水柵	コンクリート工		m <sup>3</sup>	18-8-20(高炉) t=10cm
	基礎砕石工		m <sup>3</sup>	t=10cm











## 主要機械一覧表

工種	名称	規格	使用目的	数量	摘要
切土・床掘	バックホウ	0.7m <sup>3</sup> 級	掘削、積込	2	排ガス規制
	バックホウ	0.7m <sup>3</sup> 級	掘削、積込	1	排ガス規制(クレーン機能付き)
	バックホウ	0.45m <sup>3</sup> 級	掘削、積込	2	排ガス規制
	バックホウ	0.45m <sup>3</sup> 級	掘削、積込	1	排ガス規制(クレーン機能付き)
	バックホウ	0.25m <sup>3</sup> 級	掘削、積込	1	排ガス規制
	バックホウ	0.15m <sup>3</sup> 級	掘削、積込	1	排ガス規制
盛土・埋め戻し	ブルドーザ	15t級	転圧、法面整形	1	排ガス規制
	バックホウ	0.7m <sup>3</sup> 級	転圧、法面整形	2	排ガス規制
	バックホウ	0.45m <sup>3</sup> 級	転圧、法面整形	1	排ガス規制
	バックホウ	0.25m <sup>3</sup> 級	転圧、法面整形	1	排ガス規制
	振動ローラー	4t	転圧	1	排ガス規制
運搬機械	ダンプトラック	10t	資材運搬、土運搬	3	
	ダンプトラック	4t	資材運搬、土運搬	2	
	ダンプトラック	2t	資材運搬、土運搬	1	
	不整地運搬車	10t	資材運搬、土運搬	1	
根株処理工	移動式破碎機		根株破碎	1	排ガス規制
	バックホウ	(クロー付) 0.25m <sup>3</sup> 級	根株破碎	1	

工種	名称	規格	使用目的	数量	摘要
法面保護工	吹付機		植生基材吹付工吹付機	1	
	コンプレッサー	18.5m <sup>3</sup> /分	植生基材吹付工吹付機	1	排ガス規制 低騒音
	発電機	45KVA	植生基材吹付工吹付機	1	排ガス規制 低騒音
L型擁壁	ラフタークレーン	15t吊	吊込み	1	
排水施設工	バックホウ	0.45m <sup>3</sup> 級	吊込み	1	排ガス規制(クレーン機能付き)
舗装工	アスファルトフィニッシャー	2.4~4.5m	アスコン敷均し	1	排ガス規制
	タイヤローラー	8t~20t	転圧	1	排ガス規制
	振動ローラー	4t	転圧	1	排ガス規制
	モーターグレーダー	ブレード3.1m級	路盤材敷均・不陸整正	1	排ガス規制
	バックホウ	0.25m <sup>3</sup> 級	路盤材敷均・不陸整正	1	排ガス規制
	アスファルトカーパー		アスカーブ設置	1	
ガードレール	支柱打込機		土中用支柱打込	1	

注) 使用材料については「材料使用承認願」により、承認を得ること。



工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
準備工	準備工	・工事着手に先立ち、地権者、地元住民及びその他関係者との連絡協議等を行い、工事が円滑に進められるようにする。	
		・現場出入口及び現場までの主要箇所工事看板を設置し、第三者に対して工事中であることを周知する。	
		・現場近くに現場事務所、仮設トイレを設置し、安全旗及び工事関係標識等を掲示する。	
	着工前測量	・縦横断及びBMの確認を行い、現地との相違を監督員に報告した後に法切の丁張を設置し監督員の確認を受ける。	
		・本工事に使用する仮BMを数箇所設置する。(設置箇所は平面図に明示して、監督員に提出する。)	
		・基準点、控杭、BM、仮BM等は損傷、移動がないように堅固に設置し、保護柵等で覆い定期的に点検・確認を行う。	
		・工事に必要な切土・盛土の丁張、各構造物の丁張は所定の法線・基準高・勾配に設置し、監督員の確認を受ける。	
道路土工 掘削工	バックホウ掘削	・丁張に従い、崩壊を起こすことのないように、事前に土質の確認を行い施工する。また、土砂・岩石の飛散、逸散をできる限り	
	大型ブレーカー掘削	少なくするようにし、切取法面は凸凹湾曲のないように指定の法勾配で仕上げる。	
		・法面の玉石・転石等の不安定な浮石等を除去しながら、凹凸・過掘りの無いように注意し丁寧に仕上げる。	
		・大型ブレーカーを使用する際の掘削及び転石破砕は石片の逸散、岩石の飛散に十分注意して行う。	
		・岩石掘削は油圧ブレーカーにより行い、施工基面は凹凸・過掘りの無いように注意し丁寧に仕上げる。	
		・新規切土は、各測点で試掘、土壌硬度計での測定をした後、地質確認を監督員の立会のもと行い、安定勾配で切土を行う。	
		・切取りは上部から掘削し、土質の変化や湧水等が見られる場合は、監督員に報告し指示を受ける。	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
盛土工		<ul style="list-style-type: none"> <li>盛土工の施工に際し、地盤の表面を盛土層厚の1/2の厚さまで掻き起こしてほぐし、盛土材とともに締固め、地盤と盛土の</li> </ul>	
路体(路床)盛土		<ul style="list-style-type: none"> <li>一体性を確保する。</li> </ul>	
機械盛土(路体)		<ul style="list-style-type: none"> <li>路体はブルドーザ〇tを用いて各層〇cm以内で敷き均し・締固め、転圧を〇回以上行い、締固め度合いを確認しながら次の</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>施工に移るものとし、盛土全体にわたって締固め度が得られるように施工する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>路体の敷均しはブルドーザ〇tで行い、一層の仕上がり厚を〇cm以内とし、締固めはブルドーザ〇tで〇回以上行う。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>現場発生土等を用いる場合は、その中で良質な材料を使用し、適切な含水比で施工する。また、品質管理試験は、規定の</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>頻度で現場密度試験を実施し、基準の締固め度に達しているか確認する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>1:4より急な勾配を有する地盤上に路体盛土工を行う場合には、段切を行い盛土と現地盤との密着を図り、滑動を防止する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>転圧終了後1000㎡に1回現場密度試験を行い、その値が最大乾燥密度の〇%以上とする。</li> </ul>	
機械盛土(路床)		<ul style="list-style-type: none"> <li>路床はブルドーザ〇t又はタイヤローラー等を用いて各層〇cm以内で敷き均し・締固め、転圧を〇回以上行い、締固め度合いを</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>確認しながら、次の施工に移るものとし、盛土全体にわたって締固め度が得られるように施工する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>路床の敷均しはブルドーザ〇tで行い、一層の仕上がり厚を〇cm以内とし、締固めはブルドーザ〇t又はタイヤローラーで〇回以上</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>行う。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>転圧終了後500㎡に1回現場密度試験を行い、その値が最大乾燥密度の〇%以上とする。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>管渠、水路等の転圧は振動ローラー・タンパで入念に締固めを行う。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>材料試験により示された最適含水比で盛土を施工し、必要があれば散水しながら施工する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>路肩部分等の締固めについては、振動ローラー・タンパ等の小型締固め機械を用いて、一層の仕上がり厚を〇cm以内で行う。</li> </ul>	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
法面整形工 法面整形(盛土部)	機械盛土法面整形 (土羽打)	・整形にあたって、表面に転石や腐葉土など盛土にそぐわない土砂が混入しないよう注意し、丁張りに従いバックホウ〇m <sup>3</sup> にて	
		最低部より天端に向けて指定の勾配で平行に仕上げ、凸凹湾曲のないように注意しながら仕上げを行う。	
		・降雨、降雪が予想される場合は、盛土面をブルーシート等で保護する。また、盛土面の山側に素掘りの排水路を施し、雨水の	
		浸透を防ぐ。	
残土処理工	機械盛土	・ブルドーザー〇tを用いて各層〇cmに敷き均し・締固め転圧を〇回以上行い、締固め度合いを確認しながら、次の施工に移る	
	ダンプトラック運搬	ものとし、盛土全体にわたって締固め度が得られるように施工する。	
		・転圧終了後1000m <sup>3</sup> に1回現場密度試験を行い、その値が最大乾燥密度の〇%以上とする。	
根株処理工	木材チップ化	・立木伐採、伐根作業により現地発生した根株を所定の場所へ運搬し、粉砕機によりチップ化し、再利用する。	
	チップ散布	・粉砕機の取扱は、有資格者により行うこととし、粉砕した後、監督員に数量の確認を受ける。	
		・根株はあらかじめ一箇所を集め、付着した土砂・小石を取り除き、木材破砕機にてチップ処理を行う。	
		・現地で発生した根株は、根株破砕機でチップ処理する。チップの数量は、監督員に確認を受ける。	
		・チップは現場内の埋戻箇所、盛土箇所等に散布を行う。その際、塊が出来ないように、均等厚になるよう散布を行う。	
		・散布場所は、監督員の指示を受け、バックホウ及び人力にて散布を行う。	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
法面工 植生工		・着手前に法面の土壌硬度及び土壌試験を行い、その結果を監督員に提出する。	
	植生マット工	・施工する法面の浮石、法肩の木根等を除去し法面清掃を行う。	
		・法面上部より下部に向かって地山に密着させながら張り付け、アンカーピン・大頭釘等で地山に堅固に固定させる。	
	繊維ネット工	・着手前に人力にて法面整形・清掃を行い、浮石・木の根等を除去し、出来るだけ法面に凹凸がないように仕上げる。	
		・繊維ネットが吹付により移動することがないように、止めアンカー・大頭釘で100㎡当たりの規定の本数以上で堅固に固定する。	
		その際、重ね合わせは○cm以上とし、特に浮いたネットがないように法面の凹凸に合わせて密着させて施工する。	
		・材料の混合は、設計配合に基づいて各材料をタンク内に投入し、均一になるように十分攪拌をした後、吹付作業を行う。	
		・吹付に際しては、吹付距離及びノズルの角度を地盤の硬軟に応じて調節し、吹付により法面を荒らさないよう留意しながら	
		著しい厚薄むらがないようにする。	
		・吹付に際し、他の構造物を汚さないよう十分注意して行き、リハウンド等は速やかに取り除く。	
		・吹付厚の確認は、ノズルマンにチェックピンを持たせ、随時厚みを確認しながら吹付作業を行う。	
		・地山に湧水がある場合は、監督員と協議し排水処理及び崩落防止などの対策を行う。	
		・吹付作業の時期は、天候・気温等を十分考慮して施工し、降雨・降雪の場合は作業を中止する。	
		・法面の作業中は、低い場所でも必ず安全帯を使用して作業を行う。	
	植生基材吹付工	・着手前に人力にて法面整形・清掃を行い、浮石・木の根等を除去し、出来るだけ法面に凹凸がないように仕上げる。	
		・ラス金網が吹付により移動することがないように、主アンカー・補助アンカーで100㎡当たりの規定の本数以上で堅固に固定する。	
		その際、重ね合わせは○cm以上とし、法面の凸凹に合わせて浮いた金網がないように密着させて施工する。	
		・材料の混合は、設計配合に基づいて各材料をタンク内に投入し、均一になるように十分攪拌をした後、吹付作業を行う。	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		・吹付に際しては、吹付距離及びノズルの角度を地盤の硬軟に応じて調節し、吹付により法面を荒らさないよう留意しながら	
		著しい厚薄むらがないようにする。	
		・吹付に際し、他の構造物を汚さないよう十分注意して行き、リハウント等は速やかに取り除く。	
		・吹付厚の確認は、ノズルマンにチェックピンを持たせ、随時厚みを確認しながら吹付作業を行う。	
		・地山に湧水がある場合は、監督員と協議し排水処理及び崩落防止などの対策を行う。	
		・吹付作業の時期は、天候・気温等を十分考慮して施工し、降雨・降雪の場合は作業を中止する。	
		・法面の作業中は、低い場所でも必ず安全帯を使用して作業を行う。	
	モルタル吹付工	・着手前に人力にて法面整形・清掃を行い、浮石・木の根等を除去し、出来るだけ法面に凹凸がないように仕上げる。	
		・ラス金網が吹付により移動することがないように、主アンカー・補助アンカーで100㎡当たりの規定の本数以上で堅固に固定する。	
		その際、重ね合わせは〇cm以上とし、法面の凸凹に合わせ浮いた金網がないように密着させて施工する。	
		・材料の混合は、設計配合に基づいて各材料をタンク内に投入し、均一になるように十分攪拌をした後、吹付作業を行う。	
		・吹付に際しては、ノズルを法面に対してほぼ直角になるよう調節し、上部から順次下部へ吹付を行い、むらがないように均一	
		に施工する。また、法肩部の吹付は、雨水などが浸透しないように地山に沿って巻き込んで施工する。	
		・休憩後及び翌日の吹付時には、打継面の泥土等吹付材の付着に害となるものを除去し、湿らせてから吹付を開始する。	
		・吹付に際し、他の構造物を汚さないよう十分注意して行き、リハウント等は速やかに取り除く。	
		・吹付厚の確認は、ノズルマンにチェックピンを持たせ、随時厚みを確認しながら吹付作業を行う。	
		・地山に湧水がある場合は、監督員と協議し排水処理及び崩落防止などの対策を行う。	
		・吹付作業の時期は、天候・気温等を十分考慮して施工し、降雨・降雪の場合は作業を中止する。	
		・法面の作業中は、低い場所でも必ず安全帯を使用して作業を行う。	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
	人工張芝工	・施工に先立ち、材料等の品質証明及びカタログ等を監督員に提出し、承認を得る。	
		・法面を凹凸がないように整形し、縦横○cm以上重ね合わせ、法肩上部は○cm程度被覆し、端部は土中に埋め込む。また、	
		風雨により張芝が剥がれないように、目串等で固定し、養生として押さえ目土を散布し、発芽の促進を図る。	
		・施工後に乾燥状態が長く続くようであれば、必要に応じて散水等の養生を行う。	
	木製伏工	・法面に均等に敷き並べ、ボルト・鉄線等で緊結し活動しないように設置する。	
	丸太筋工	・丸太の据付は隙間が生じないようにする。	
		・設置箇所の法面を整形した後、所定の位置に丸太を設置し、アンカーを丸太1本につき2本でしっかり固定する。	
		・根入れ不足がないように標準図のとおり施工する。	
擁壁工	コンクリート擁壁工	・床掘前に丁張りを設置し、監督員の確認(土質・根入れ等)を受ける。	
	床 掘	・床掘は、バックホウ○m <sup>3</sup> を使用し、幅・高さ及び延長は出来るだけ過掘りが無いように十分注意して掘削する。	
		・床掘の途中で、土質の変化や湧水等が見られる場合は、監督員に報告し指示を受ける。	
		・床掘完了後は床掘検査・土質の状況等、監督員の確認を受ける。	
		・過掘りした場合は、基礎栗石等で充填する。なお、岩盤の場合はコンクリートで充填する。	
	基礎工	・基礎栗石は、所定の幅・厚さ及び延長を確保するように、バックホウ○m <sup>3</sup> 及び人力にて丁寧に敷均し、振動コンパクタ等で均一	
		に締固め、表面の凹凸を平滑に仕上げる。	
	型枠工	・型枠は、化粧合板型枠を使用し、設計図書に基づき所定の幅・高さ・延長及び勾配に組み立てる。	
		・型枠支保工は、十分な強度と安定性を持つように施工し、コンクリート打設時の衝撃・側圧に耐え、倒れ・移動等のないように	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じて添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		強固に組み立てる。	
		・型枠の内面には剥離剤を塗布する。また、型枠の脱枠は、所定の養生期間を経過後とする。	
		・型枠を再利用する時は、ケレン・清掃してコンクリート等を取り除いた状態で使用する。	
		・型枠組立に際し、作業主任者を選任して作業する。	
	足場工	・足場はキャットウォーク足場を設置し、ボルト・番線等で堅固に固定する。	
		・作業床は隙間・ずれ及び移動がないように番線で堅固に固定する。	
		・労働安全基準に基づき、手摺りには中柵を設け、作業床と手摺りの間には幅木を設ける。	
		・足場の設置前には部材の点検を行い、損傷・変形・腐食のあるものは使用しない。	
		・足場設置期間中は、作業開始前に安全点検を行い、損傷部があった場合はただちに修復する。	
		・足場の組立に際し、作業主任者を選任して作業する。	
	コンクリート工	・コンクリートの打設はポンプ車打設とし、工事着手前にポンプ車打設承認願いを提出し承認を得る。	
		・コンクリートは分離しないようにバックホウ〇m <sup>3</sup> (移動式クレーン仕様)、ホッパー〇m <sup>3</sup> を使用して打設を行う。	
		・運搬は、工場から現場まで片道〇kmであり、運搬所要時間は約〇分を要する。コンクリートは練り混ぜ開始から90分以内に	
		打設し、これを過ぎた物は使用しない。	
		・打設前に型枠内の清掃を行い、ゴミ・泥・雑物を全て取り除き、溜水等がある場合は完全に排水してからコンクリートの打設を	
		開始する。	
		・打設に当たっては投入口から打設面までの高さを1.5m以下を厳守し、出来るだけ打設面との高さを低くして材料の分離に	
		注意し、1層の高さは〇cm以内とする。	
		・打設したコンクリートは横移動させないように注意し、締固めは高周波パイプレーターにより十分に締め固める。なお、型枠付近は、	
		人力によって棒突き又はピカコンを使用し気泡の処理を行う。	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		・各層の打ち足しは、上下のコンクリートが充分馴染むようにバイブレーターを下層に10cm程度差し込んで締固めを行い、コールドジョイント等が発生しないように施工する。	
		・コンクリートの養生は○日以上とし、低温・急激な温度変化等による有害な影響を受けないように、露出面を養生マットや布等で覆い散水を行い、乾燥を防ぐためにブルーシート等で覆い、常に湿潤状態を保つようにする。	
		・冬期の低温時(4℃以下)には、練炭・ジェットヒータ等を使用し品質の向上を図る。	
		・コンクリートの品質管理については、打設日毎に打設場所(投入口)から採取し、スランプ・空気量等を測定する。なお、圧縮強度用供試体は1回に6個作成し、1週・4週で強度試験を行う。	
	打継面清掃	・打継面清掃は、高圧洗浄機・ワイヤーブラシ・エアコンプレッサー等で、表面のレイトンス・緩んだ骨材粒・品質の悪いコンクリートを除去し、新しいコンクリートとの密着を図る。	
		・打継面清掃は、ウォータージェット又はワイヤーブラシ等を使用してレイトンス除去を十分に行う。	
	水抜きパイプ	・使用材料(認定リサイクル製品)の品質証明及びカタログ等を監督員に提出し、承認を得る。	
		・コンクリート打設中の移動がないように、所定の位置に堅固に固定設置する。	
		・埋戻前に水抜きパイプに吸出し防止材を設置する。	
	埋戻工	・埋戻の仕上り厚は1層当たり、路体箇所は○cm(路床箇所は○cm)以内とし、振動ローラー及びランマー等を使用して十分な締固め・転圧を行う。その際には、構造物が破損しないよう十分注意して施工する。	
	Gr基礎付L型擁壁	・使用材料(L型プレキャスト擁壁)の品質証明及びカタログ等を監督員に提出し、承認を得る。	
	床 掘	・床掘前に丁張りを設置し、監督員の確認(土質・根入れ等)を受ける。	
		・床掘は、バックホウ○m <sup>3</sup> を使用し、幅・高さ及び延長は出来るだけ過掘りが無いように十分注意して掘削する。	
		・床掘の途中で、土質の変化や湧水等が見られる場合は、監督員に報告し指示を受ける。	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		・床掘完了後は床掘検査・土質の状況等、監督員の確認を受ける。	
		・過掘りした場合は、基礎碎石等で充填する。	
	基礎工	・基礎碎石は、所定の幅・厚さ及び延長を確保するように人力にて丁寧に敷均し、振動コンパクタ等で十分に締固めを行い、均一に仕上げる。	
		・基礎コンクリートは、所定の幅・厚さ及び延長を確保するように型枠を組み、ホッパーにて材料の分離に注意しながら打設しハイブレーターで十分突き固め、平滑に仕上げる。	
	埋戻工	・埋戻の仕上り厚は1層当たり、路体箇所は○cm(路床箇所は○cm)以内とし、振動ローラー及びランマー等を使用して十分な締固め・転圧を行う。その際には、L型擁壁が破損しないよう十分注意して施工する。	
	補強土壁工	・使用材料の品質証明及びカタログ等を監督員に提出し、承認を得る。	
	床 掘	・床掘前に丁張りを設置し、監督員の確認(土質・根入れ等)を受ける。	
		・床掘は、バックホウ○m <sup>3</sup> を使用し、幅・高さ及び延長は出来るだけ過掘りが無いように十分注意して掘削する。	
		・床掘の途中で、土質の変化や湧水等が見られる場合は、監督員に報告し指示を受ける。	
		・床掘完了後は床掘検査・土質の状況等、監督員の確認を受ける。	
	材料設置・敷設	・設計図書等で位置を確認し、鋼製ユニット1段目を床掘面に正しく設置する。この時、ユニットの天端基準高ができるだけ同じになるように、十分注意する。ユニット設置後、植生シートを取付け、内側に垂らしておく。	
		・設計図書に従って、ジオグリッドの敷設長さを確認し、カッターにて切断する。	
		・切断したジオグリッドを連結棒に巻き付けて連結し、敷設する。この時、ラップの上・下側は土砂の搬入位置と撒き出し方向を確認し、ラップ部分がめくれぬように決定する。	
		・ジオグリッドの幅方向のオーバーラップ部のピン固定間隔は、○m～○mとし、動かないようにしっかりと固定する。また、地山側端	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		部等は必要に応じてピン固定しておく。	
		・転圧時のはらみだし防止のために、斜体材を鋼製ユニットに固定する。	
		・埋戻し材の巻出しは、ブルドーザ〇tを使用し、ジオグリッドがめくれないように、ラップ部の上側方向より、また、法面に対して平行	
		に土砂の巻出しを行う。この際、はらみだし防止のため重機は法肩から〇m～〇m以上離れて走行し、巻出し作業を行う。	
	転 圧	・締固めはブルドーザ〇t及びコンバイントローラー〇tを使用して1層厚〇cm以内として〇回以上転圧を行う。この際、はらみだし防止	
		だし防止のため重機は法肩から〇m～〇m以上離れて走行し、転圧を行う。	
		・法肩から1.0～1.5m以内は、振動ローラー及び振動コンパクタ等で転圧し、全体的に凹凸がないように水平かつ平滑に仕上げる。	
		・盛土施工中は、降雨時の排水等を十分考慮して施工し、盛土表面に水が溜まっている場合はバケツ・スポンジ等で取り除いて	
		から作業を行う。また、降雨・降雪が予想される場合は、盛土面をブルーシート等で覆い保護する。	
		・転圧終了後500㎡に1回現場密度試験を行い、その値が最大乾燥密度の〇%以上とする。	
	埋戻し	・ユニット前面の埋戻しは、勾配があるのでバックホウで土砂を投入し、人力にて敷均し、振動コンパクタ・木杓等で入念に転圧を行う。	
	・転圧の際は、ユニットが破損しないように十分注意する。		
排水施設工	重圧管、横断溝	・製品は承認を受けたJIS製品を使用し、破損等がなく使用可能か確認を行う。	
	U型側溝	・床掘は、バックホウ〇㎡を使用し、出来るだけ過掘りの無いようにする。その後、人力にて丁寧に仕上げ、振動コンパクタ等で締固	
		める。なお、過掘りした場合は、基礎碎石又は生コンで充填する。	
		・基礎部は、不等沈下が生じないように十分転圧を行い、床面部の悪い所は良質土と入れ替えを行い施工する。	
		・基礎碎石は、所定の幅・厚さ及び延長を確保し、人力にて丁寧に敷均し、振動コンパクタ等で締固め、均一に仕上げる。	
		・基礎コンクリートは、所定の幅に型枠を設置し、バックホウ及び人力にて打設する。また、棒状バイブレータを使用し十分に締固める。	
		表面は、木コテで平滑に仕上げる。	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じて添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		・埋戻しは、製品に衝撃や偏土圧を与えないように、左右均等に良質土で埋戻し、振動コンパクタ等で入念に転圧する。	
	L型側溝工	・床掘後、基面を人力にて整正し、基礎碎石を施し振動ローラー・タンパ等で転圧を行う。その後、敷モルタルを敷均し、丁張や前後の取付に注意しながら据付を行う。	
		・床掘は、バックホウ〇m <sup>3</sup> を使用し、出来るだけ過掘りの無いようにする。その後、人力にて丁寧に仕上げ、振動コンパクタ等で締固める。なお、過掘りした場合は、基礎碎石で充填する。	
		・基礎碎石は、所定の幅・厚さ及び延長を確保し、人力にて丁寧に敷均し、振動コンパクタ等で締固め、均一に仕上げる。	
		・山側の埋戻しは、製品に衝撃や偏土圧を与えないように人力にて埋戻し、木タコ等で転圧する。	
	集水枡	・型枠は、設計図書にある幅・高さ及び厚さを確保するように強固に組立て、打設前に型枠内を点検・清掃し、ゴミ等の不純物を取り除いた後にコンクリートを打設する。	
		・コンクリートは人力にて打設し、棒状パイププレートで十分締め固め、天端面は金コテ等で丁寧に仕上げる。	
		・養生はコンクリート打ち込み後の一定期間を硬化に必要な温度・湿度を保つため、養生マット・シート等で覆い、散水や保温に努め耐久性・品質を確保する。	
		・基礎碎石は、所定の幅・厚さ及び延長を確保し、人力にて丁寧に敷均し、振動コンパクタ等で締固め、均一に仕上げる。	
		・埋戻しは、集水枡が動かないように人力にて埋戻し、木タコ等で転圧する。	
		・集水枡と側溝の接続部は、漏水が生じないように注意・施工する。	
	ふとんかご工	・施工に先立ち、材料等の品質証明及びカタログ等を監督員に提出し、承認を得る。	
		・床掘は、バックホウ〇m <sup>3</sup> を使用し、出来るだけ過掘りの無いように掘削した後、人力にて丁寧に仕上げる。	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		・ふとんかごを組み立て設置した後、止め杭を所定の位置・根入れに打ち込む。	
		・割栗石を網の周辺にきれいに敷き並べ、栗石が網目から漏れないようにした後、空隙の無いように中詰めを行う。	
		・開口部又は連結部については、ふとんかごと同一規格の鉄線を使用し、緊結を行う。	
		・埋戻しは、ふとんかごが変形したり動かないよう、十分注意しながら左右均等に良質土で埋戻し、振動コンパクタ等で転圧する。	
		また、土砂埋戻し部には防砂板を巻き土砂の流入を防ぐ。	
	暗渠工	・位置確認後、床掘はバックホウ〇m <sup>3</sup> で行う。	
		・床掘完了後、防砂板を敷き、コンクリート用砕石で埋戻しを行う。	
		・管を配置した後のフィルター材は、目詰まりや管の孔が詰まらないように注意しながら埋戻す。	
舗装工	路床工	・路床面は、モーターグレーダで不陸整正、タイヤローラー・マカダムローラーで締固めを行い、縦横断形状に仕上げる。	
		・路床の部分的な締固め不足や不良の箇所を確かめるため、転圧に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を有するタイヤローラー・マカダムローラーで走行し、完了面を〇回以上プルーフローリングを行う。	
		・転圧後は、現場密度試験を〇箇所で行い、その値は最大乾燥密度の〇%以上とする。	
		・盛土路床箇所において、プルーフローリングの不良、現場密度試験により最大乾燥密度の〇%を下回る箇所については、セメント系安定材を混合して路床の安定処理を行い、支持力の改善を行う。	
		・路床面に異常を発見したときは、速やかに監督員と協議し、適切な処置を施し、完了後は監督員の確認を受ける。	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
	下層路盤工	・使用材料は、品質証明などを材料承認願いで提出し、監督員の承認を得て使用する。	
	上層路盤工	・路床確認完了後、ダンプトラックにて再生クラッシャーラン・粒度調整砕石を搬入し、モーターグレーダで敷均し及び不陸整正を行い、	
		タイヤローラー・マカダムローラーにて十分な転圧を行う。	
		・縦横断形状が整ったら、所定の密度が得られるまで含水比に注意しながら、十分な締固めを行う。	
		・締固めは、縦断方向に行い、路肩より中央に向かい後輪の半分程度が重複するようにして転圧する。	
		・締固めに際し、隣接構造物などに接する路盤部分でタイヤローラー等による締固め・転圧が十分に出来ない箇所は、振動ローラ・	
		コンバインドローラ等の適切な締固め機械により、入念に転圧・締固めを行う。	
		・転圧後の現場密度試験については、最大乾燥密度の施工管理規格値を○%以上で設定し、その値を確保する。	
		・完了後は監督員の確認を受ける。	
	表層工	・加熱アスファルト混合物の粒度及びアスファルト量の決定は、合材製造会社の配合報告書を監督員に提出し、承認を得る。	
		・路盤工終了後、アスファルト乳剤を均一に散布し、乳剤が散布された路盤面を保護するため、養生砂を均一に散布する。	
		・乳剤散布に際しては、散布温度に注意し、構造物などに乳剤がかからぬように石灰粉を塗布し、必要に応じてビニールシートで	
		被覆するなど、十分注意して散布を行う。	
		・舗装にあたり、気象条件(天気・気温等)を十分に把握した上で舗装日を設定する。	
		・合材の搬入はダンプトラックで行い、荷台には保温シートを掛ける等、合材の温度低下防止及び飛散・落下防止に努める。	
		・舗装はアスファルトフィニッシャーにて敷均し、構造物などの周辺その他アスファルトフィニッシャーの使用が出来ない箇所は、人力でアスファルトが	
		分離しないよう同時に施工する。	
		・アスファルト合材は、所定の厚さが得られるように若干の余盛をみて、アスファルトフィニッシャーにて敷均し、道路端部は人力にて丁寧	
	敷均しを行う。		

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		・締固めは、道路の低い方から高い方へ転圧し、転圧の作業順序は、継ぎ目転圧・初期転圧・二次転圧・仕上げ転圧の順に	
		施工する。	
		・初期転圧はマカダムローラーで二次転圧をタイヤローラーで行い、合材の温度管理には特に注意を払い、適時適切な管理のもとに	
		舗装を実施する。	
		・初期転圧はコンバインドローラー等を使用し、2回以上転圧する。その後、タイヤローラーで所定の密度が確保できるよう、十分に転圧	
		する。	
		・ローラーマークが路面に残らないように、急発進・急停車及び方向転換等をしないように注意する。	
		・仕上げ転圧は、二次転圧で生じたローラーマークや表面の小さな高低をなくすよう平坦に仕上げを行い、構造物の周囲や狭い所	
		でローラー転圧が出来ない所は、振動ローラー・振動コンパクタ等を使用し、十分に締固めを行う。	
		・作業中に降雨・降雪があった場合は、速やかに作業を中止する。また、気温が5℃以下の場合は、舗装作業は行わない。	
	アスカーブ設置工	・使用材料は、監督員の承認を得て使用する。	
		・アスファルト舗装完了後、舗装面を清掃する。幅員を確保する為、設置底辺にラインを示す白線を引き、アスカーブの幅にタックコート	
		塗布する。アスファルトカバーの投入ホッパーに人力にて細粒度アスコンを入れ、ラインに沿って移動しながら仕上げる。	
		・アスカーブ設置路面は、水分・泥・砂塵等を取り除いてプライマーを路面に均等に塗布し、合材の温度管理には特に注意を払い、	
		適時適切な管理のもとに施工する。	
		・作業中に降雨・降雪があった場合は、速やかに作業を中止する。	
	区画線設置工	・使用材料は、監督員の承認を得て使用する。	
		・設置路面は、水分・泥・砂塵等を取り除き、常に○℃～○℃の温度で塗料を塗布できるよう溶解槽を適温に保ち、均一に	

注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		接着するよう施工する。	
		・塗布面にガラスビーズを散布する場合は、風の影響によってガラスビーズに片寄りが生じないように注意して、反射に明暗がないよう均等に固着させる。	
防護施設工	ガードレール (Gr-C-2B)	・支柱の建て込みは、所定の根入れを確保してぐらつかないように固定し、通り・歪み・高さに注意して設置する。	
		・埋戻しは、砂を使用し十分に突き固めた後、上部をモルタルで充填し仕上げる。	
		・ガードレールのビーム取付は、自動車進行方向に対し小口が見えないように重ね合わせボルト・ナットで締め付け固定する。	
	ガードレール (Gr-C-4E)	・施工位置は監督員と協議し、支柱打ち込み機を使用して規定の深さまで打ち込み、通り・歪み・高さに注意して設置する。	
		・岩盤、転石等によって打ち込みが困難な場合は、監督員と協議し指示を仰ぐ。	
		・ガードレールのビーム取付は、自動車進行方向に対し小口が見えないように重ね合わせボルト・ナットで締め付け固定する。	
安全施設工	カーブミラー設置	・設置位置は両方向を考慮し、監督員の立会もしくは指示を仰ぎ施工する。	
後片付け	後片付け	・工事完了後に監督員、地権者、管理者等に現地の確認をしてもらう。	
		・工事中においての破損箇所の有無などをチェックし、破損箇所がある場合は、責任を持って処理(修復)する。	
		・現場内を清掃し、使用した資材・機材等はすべて持ち帰る。	

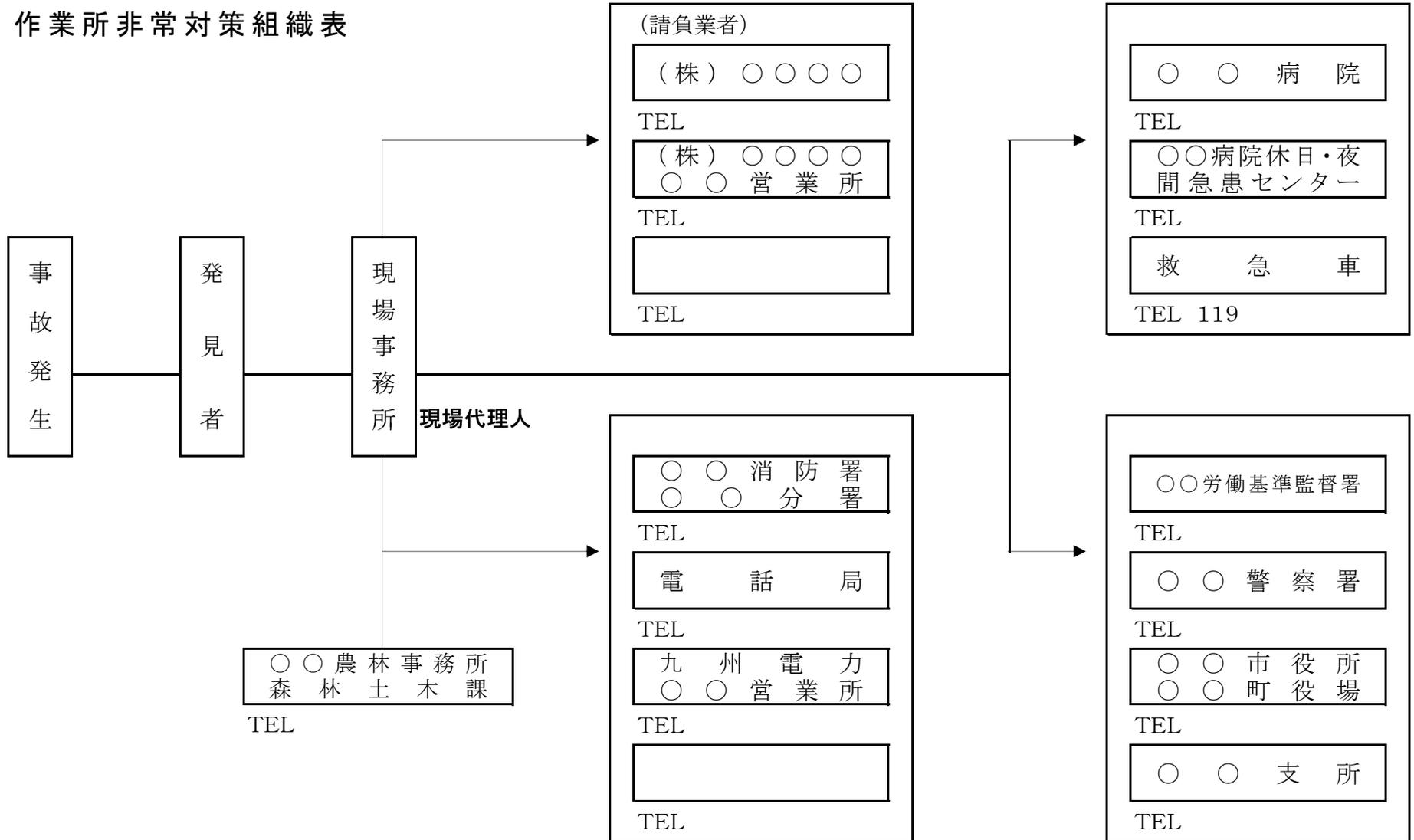
注)任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

# 安全管理計画

項目	安 全 管 理 計 画	摘 要
安全委員会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月第10曜日に半日以上時間を設けて安全会議を実施し、本工事の重点箇所及び作業箇所・作業方法の打合せ及び反省会と翌月の主要目標を協議し、災害事故防止に努める。</li> <li>毎月1回〇日に開催し、その月の安全目標の達成状況、翌月の月間安全目標を設定する。また、緊急時等、必要に応じて随時召集し対策を検討する。</li> <li>安全管理者を選出し、作業中の安全及び注意事項の指導を行う。</li> </ul>	
発破作業場の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>火薬類を使用する場合は、監督員に使用計画書を提出し、現地に火薬庫を設置する場合は、立ち入り防止柵・警報装置等を設置する。</li> <li>爆破に際しては、過度の爆破を避け、既設構造物に損傷を与えるおそれがある場合は、防護施設を設ける。また、電気雷管を使用する場合は、爆破に先立って迷走電流の有無を調査し、迷走電流があるときは、その原因を取り除く。</li> </ul>	
土運搬作業 (資材運搬作業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>重機及び車両等は、作業開始前に保守点検を行う。掘削機械の作業半径内は立ち入り禁止とし、やむを得ず立ち入る場合は誘導員を配置する。</li> <li>工事車両は最徐行し、公道上に駐停車しないように指示徹底を行う。交通安全については、道路管理者及び地元関係者と連絡を密にし、安全対策に万全を期す。</li> <li>資材の搬出入時は、必要に応じて交通誘導員を配置する。また、地元(第三者)車両を最優先とする。</li> </ul>	
安全看板の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事名、工事箇所、工期等を記載した工事看板を工事搬入路の出入り口及び主要箇所に設置し、通行車両及び周辺住民に周知し、工事の安全に努める。</li> <li>工事箇所において、現場事務所に安全旗を掲揚し、「立入禁止」・「ヘルメット着用」・「整理整頓」等の看板を必要な箇所に設置する。</li> </ul>	安全旗 
安全標識の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場入口に、「工事案内板」・「協力お願い板」・「トラック出入口注意」及び「工事関係者以外立入禁止」等の標識を設置する。</li> <li>現場内各所に、「安全第一」・「服装の端正」・「火気注意」・「足下注意」等の標識を掲示する。</li> <li>現場事務所前には、各作業責任者一覧表及び毎月の安全目標等を掲示する。</li> </ul>	
特別安全日の選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1日(休日の場合は翌日)を特別安全日とし、社内役員による安全パトロールを実施する。</li> <li>毎月第10曜日を特別安全日と定め、安全作業の心得、重機・機械類の点検整備を行い、災害防止に努める。</li> <li>毎週末終業時、現場内の整理整頓、安全目標の反省会を行う。また、翌週の作業に向けて安全目標の再確認をし、安全意識の向上を図る。</li> </ul>	
過積載の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事資材の運搬に当たり、過積載をしないように注意するとともに、生コン会社・砕石会社などへも指導を徹底する。</li> </ul>	
土石流対策 (土石流に関する特記仕様書)	<ul style="list-style-type: none"> <li>豪雨、出水、その他台風等の発生があった場合は、気象予報などについて十分に注意を払い、降水量等を現場又は役場等を通じて把握し、作業員の安全を確保する。</li> <li>現場作業に携わる者全てに、避難場所・避難合図(拡声器などによる)を周知徹底し、土石流災害の予防に努める。</li> <li>現場事務所に災害対策用のブルーシート及び土のう袋等を常備しておく。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>掘削法面は、崩壊・落石などに注意し、安全ネット及びブルーシート等で覆い、作業の安全を確保する。</li> <li>工事車両は集落付近、通学路などを通行するときには特に注意し、最徐行を徹底するよう指導する。</li> </ul>	

# 災害時の体制

## 作業所非常対策組織表



## 施 工 管 理 計 画

工 種	種 別	出 来 形 管 理		写 真 管 理		品 質 管 理		摘 要
		管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	
工事全景	着工前							
	竣工							
一般共通	仮設物							
	安全管理							
	交通管理							
	機械施設							
	使用材料							
	伐開・除根							
	丁張							
土工	切取工	基準高 ±50mm						
		幅-0mm 幅+100mm						
		法長-100mm 法長+2%						
		延長-100mm						
		勾配±10%						
	路体盛土 路床盛土	基準高 ±50mm						
		幅-0mm 幅+100mm						
		法長-100mm 法長+2%						
		延長-100mm						
		勾配±10%						
ダンプトラック運搬								





## 施 工 管 理 計 画

工 種	種 別	出 来 形 管 理		写 真 管 理		品 質 管 理		摘 要
		管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	
擁壁工	コンクリート基礎工	基準高 ±30mm						
		高さ-10mm						
		幅-10mm						
		延長-50mm						
	補強土壁工	基準高±50 mm						
		高さ-50mm						
		法勾配±0.03h かつ30cm以内						
		控え長さ 設計値以上						
		延長-50mm						
	排水施設工	重圧管(暗渠工)	基準高 ±30mm					
延長-50mm								
横断溝		基準高±30 mm						
		延長-50mm						
		厚さ-10mm						
		高さ-10mm						
U型側溝 L型側溝 コルゲートU字フリューム		基準高±30 mm						
		延長-50mm						



